

## 平成30年度 茨城県第4採択地区第2回教科用図書選定協議会議事録

- 1 日 時 平成30年7月5日（木）午前10時00分
- 2 会 場 大洗文化センター 大会議室
- 3 内 容

### <事務局>

定刻となりましたので、要項に従いまして進めさせていただきますが、会に先立ちまして、本日の進め方について確認させていただきます。

はじめに、小学校用教科用図書、学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（特別支援学級教科用図書）、中学校用「特別の教科 道徳」の選定、中学校用教科用図書の審議を行います。その後、資料等の公開の対応について協議させていただきます。最後に諸連絡を行います。

それでは、「開会のことば」を 本選定協議会副会長 城里町教育委員会教育長 高岡 秀夫 様 お願いいたします。

（1）開会のことば 副会長 城里町教育委員会教育長 高岡 秀夫 様

（2）教科用図書選定協議会会長あいさつ

### <会長>

本日は、平成30年度第4採択地区第2回教科用図書選定協議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本年度は、平成31年度使用の小学校用図書の選定と、特別支援学級で使用する教科用図書の選定、中学校用「特別の教科 道徳」の選定、順次教科の順に沿って審議をお願いいたします。別冊で2、3、4と資料がございますが、それぞれの資料の1頁、2頁目に調査項目及び観点ということで、茨城県で示された選定に対しての観点や項目が記載されております。調査部長はそれに基づいて調査活動をそれぞれの調査部会で行っております。それぞれの観点に沿って、後ほど調査部長から調査報告がございますので、その報告を受けて委員の皆様には審議をいただき、進めていければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### <事務局>

ありがとうございました。

それでは採択についての審議・議決に移ります。

採択についての審議については、本選定協議会規約第9条によりまして、議事の進行は会長が行うこととなっております。飯島 会長、よろしくお願いいたします。

### <会長>

それでは議事に入ります。議事の進め方ですが、各教科ごとに審議及び議決していきます。教科の順番は、国語、社会、算数、生活、理科、音楽、図工、家庭、保健体育、特別

支援教育，特別の教科 道徳の順で行いたいと思います。

各教科の議決までの流れでございますが，最初に，調査部会からの報告をいただきまして，調査部会への質疑となります。各部長が報告をしますので，ご質問がある場合は質疑をお願いいたします。その後，部長が退席した後に，審議・議決をいただき，採択理由書の検討をしていただき，そのように進めてまいります。

それでは，はじめに国語調査部会からの報告をいただきたいと存じます。事務局は，調査報告書と国語の教科用図書の見本本の配付をお願いいたします。なお，小学校の教科について，平成30年度で採択する教科用図書は，平成31年度の1年間のみ使用となっております。次年度からは，新学習指導要領に沿って検定を受けた教科書を基に採択を行ないますので，よろしくをお願いいたします。

## 調査報告書，教科用図書見本本配布 国語調査部長入室

<会長>

それでは，国語部会の報告をお願いします。

<国語調査部長>

国語の教科用図書の調査内容についてご報告いたします。

国語調査部会では，小学校国語5社，小学校書写6社の教科用図書について調査をし，その結果をまとめたものが，お手元の資料になります。その資料を基に各教科書の特長について，特に思考力，想像力，表現力及び言語感覚を豊かにするための配慮点を中心に報告いたします。

まず，小学校国語教科用図書についてご報告いたします。

「2東京書籍」につきましては，全領域偏りなくバランスの良い構成・配列になっております。また，意図的に交流活動を位置付ける配慮がなされていますし，伝統的な言語にも単元の中で系統的に取り上げた構成となっております。現代との比較や日本語の美しさに触れる工夫がなされ，表現活動にも結びつけられるような工夫が見られます。さらに，見開き一面の写真や身近に目にする具体的なものの掲載など，視覚的な資料が随所に配置されています。

次に「11学校図書」につきまして，ご報告いたします。本書は「話す・聞く」が大単元で取り上げられていて，書く活動と関連つけた構成となっております。また，巻末には，「本と友達」として，平行読書・発展読書に繋がるようなコーナーが設けられているのが特長となっております。

次に「15三省堂」につきまして，ご報告いたします。「読むこと」の領域の単元を多く設定しながら，小教材で全領域を扱うような構成となっております。伝記や歴史上の人

物資料を多く扱っている点も特長です。また、大きな特長として本書と、言葉の世界を広げることを狙った別冊資料編の2冊構成になっているところです。

次に「17教育出版」につきまして、ご報告いたします。思考力を養う教材のバランス良い配分や児童の日常生活と結びついた単元の設定となっています。学習の手引きの中に振り返りの内容が設定されていて書くことの関連が図られています。全学年とも上下2分冊となっております。

最後に「38光村図書」につきまして、ご報告いたします。「読むこと」の領域を中心とした単元を設定しながら、小教材で全領域を扱う構成となっています。「話す・聞く」での交流学习の具体的例なども示されています。「読むこと」や「書くこと」の教材が多く、「話す・聞く」など他の領域と関連させた配列となっている点が特長といえます。

続きまして、調査をしていく中で話題になりました教科用図書についてご報告をさせていただきます。「2東京書籍」です。言葉を通して、適切に表現し正しく理解する能力と伝え合う力を高めるために、「読むこと」の領域の教材を中心としつつも全領域をバランスよく扱われています。また、「学習の手引き」では交流活動を位置付け「話す・聞く」活動への配慮がなされています。思考力や想像力、表現力及び言語感覚を養うために発達の段階に応じた教材の設定や、語彙を拡充し定着させる言語教材の系統的な位置付けにも配慮されていました。国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるために、伝統的な言語文化の作品を小教材「日本の言の葉」、また、2年生以上には、「日本語のしらべ」が配置され、日本語の美しさに触れる工夫がなされていたり、取り上げられたりして、教材と関連のある図書を紹介するなど、読書への広がりも配慮されています。

日常生活に必要とされる対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を行う能力を身に付けさせるために、言語に関する事項を単元後や付録で繰り返し「言葉の力」と明示し、新聞や広告など生活と関わりのある具体的な題材の活用をし、読み比べる学習にも配慮されています。相手や目的に応じて、調べたり考えたりしたことを、表現する能力を身に付けさせるために、学習の手引きで既習学習や学習の過程を示すとともに、「つながる」と題して既習事項を振り返ることができるような構成でした。先程も述べましたが、見開き一面の写真や、子供たちがよく目にする具体物の掲載など、内容の理解や学習意欲の喚起にも役立つ視覚的な資料が随所に示されている点も良いかと考えられます。1年生から4年生は上下巻二分冊、5年生から6年生は一分冊の合本です。折り込みページが多く、興味・関心を高めるよう配慮されています。調査委員の中では、このような意見が聞かれました。以上で、小学校国語の教科用図書についての報告を終えさせていただきます。

<会長>

ありがとうございました。調査活動の報告がございました。委員の中で調査活動の報告についてご質問等がございましたら、お願いいたします。

無いですので、引き続き書写について調査報告をお願いします。

<国語調査部長>

続いて、書写の教科用図書の調査内容についてご報告をいたします。書写の教科用図書については、6社の調査をし、その結果をまとめたものがお手元の資料です。それぞれの教科用図書については、各社工夫等がなされていますが、その中で調査部において話題になったのは「38三村図書の教科用図書」でした。

本教科用図書は、イラストを多く使い、また、児童の発達段階に対応するため「調べよう」「確かめよう」「広げよう」など毛筆から硬筆までつなげて学習できるように、配慮されていました。毛筆の手本が淡墨図で解説されていて、イラスト、ヒントキャラクター、ふきだしなどを多く活用した工夫がされています。また、運筆や筆圧などを分かりやすくした解説もされています。

さらに、4年生の巻末には、詳しいローマ字表があり、5、6年生の巻末にも掲載されるなどの配慮がなされていて使いやすい構成、内容になっているという意見が多く聞かれました。

以上で、「書写の教科用図書」に関する報告を終わらせていただきます。

<会長>

ありがとうございました。ただいま書写の調査部長から報告がありましたが、ご質問はございますか。よろしいでしょうか。それでは、国語、書写の調査について、大変お世話になりました。ありがとうございました。

### **「国語」調査部長退室**

それでは、審議に入ります。調査部長からの報告について、質疑等がございましたら挙手をお願いします。特にございませんか。

ただいまの、調査部長からの報告の内容としましては、国語については、東京書籍、書写については三村図書の詳しい報告をしていただきました。ご異議がなければ、選定協議会としても調査部会報告の通り、国語については東京書籍、書写については、三村図書を採択でよろしいでしょうか。

**異議なし**

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

### **採択理由書（案）配付**

<会長>

ただいま、国語の採択理由書の案、書写の採択理由書の案を配布させていただきました。調査部会の部長の報告の中に盛り込まれていた、それぞれの項目や観点について、まとめた形になっております。委員の皆様には目を通していただいて、ご意見等ございましたら、お願いしたいと思っております。

### 「国語」調査部長入室

<会長>

書写の採択理由書について、単元の導入を硬筆で行い、毛筆教材の学習後に硬筆教材を設定することとありますが、こちらについて説明をお願いします。

<部長>

教科用図書を見ると、最初に硬筆の姿勢であるとか、鉛筆の持ち方などが示されております。そういった点を押さえた上で毛筆学習に入り、また硬筆に結び付けていくといった意味になります。

<会長>

全学年を通してこういった構成といった意味ではなく、教科用図書全体の構成の中で、硬筆からスタートして、毛筆学習に入り、また巻末に硬筆に移るという相互が関連しているという意味合いでよろしいでしょうか。

<部長>

はい。そういった意味合いになります。

<委員>

単元の導入といった表現が少し違ったのかもしれませんが。

<会長>

単元の導入といった言葉を削除し、事実がはっきりと分かるように事務局で訂正することとよろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

それでは、国語と書写については採択ということをお願いいたします。

## 調査報告書，教科用図書見本本配布

### 社会調査部長入室

それでは，社会科と地図について調査報告をお願いいたします。

#### <部長>

それでは，社会科部会での調査内容について報告させていただきます。社会科部会では，4社の教科書について調査をいたしました。その結果をまとめたものがお手元にある資料です。その資料を基に，各教科書の特長について，簡潔に報告させていただきます。

1社目の「新しい社会（東京書籍）」についてですが，学習の進め方が，「つかむ」，「調べる」，「まとめる」，「いかす」の4段階に構成されており，課題解決の流れが明確で，見通しをもって学習に取り組めるように工夫されています。児童の課題意識を高めるために，児童に親しみのあるキャラクターを使って，学習のポイントを印象深く伝える工夫をしています。また，調べ学習のための地図，グラフ，写真，年表などの資料は，内容・分量ともに適切で，本文との関連も図られている他，学習事項に応じ比較・検討しやすいよう同ページに並べられています。各単元の「まとめる」では，児童の発達段階に応じて，図表，地図，かるた，新聞など様々な表現方法を提示しています。また，「いかす」の学習過程で，自分ができることを考え，将来に向けた提案をするなどの公民的資質を養う活動が工夫されています。

また，押さえるべきキーワードは言葉として取り上げられており，児童の基礎的・基本的な知識の定着に有効です。以上のように，バランスよく学習内容が配列されていることと，資料が豊富で使いやすいこと，課題解決学習の流れが明確で，特にまとめでは社会参画への意識が高まるように構成されているのが大きな特長です。

2社目の「小学社会（教育出版）」についてですが，多くの単元でやってみようのコーナーを設け，具体的な作業を通して問題解決に必要な技能が，身に付くよう工夫されています。「まとめる」の活動では，キーワードを活用して学習内容をまとめることで，基礎基本の定着を図る手立てがなされています。

また，「深める」の場面では，様々な表現活動を通して社会参画に向けて意識や態度を育成するための工夫がされています。児童の学習意欲を喚起するように，学習問題，本文，写真や資料のレイアウトが工夫され，キャラクターと吹き出しの活用により，課題意識を高めています。

3社目の「光村図書」についての特長です。5，6年生の学習内容を1巻の構成としております。それにより，学習内容を比較したり，関連づけたりできるようになっています。その一方で教科用図書が重くなるといった短所もあると思います。学習の流れを，「みつける」，「調べる話し合う」，「まとめる」の3段階とし，問題解決的な学習の展開を図

れるよう工夫されています。「まとめる」では、「劇にする」、ルール作りなど豊富な活動例を挙げています。学習課題の文字が大きく強調され、写真や資料も大きく見やすいといった反面、多少大きすぎるといった部分も感じられました。各単元のとびらは、学習内容を示す投げかけと資料、写真で構成され、学習の見通しをもつことができるよう工夫されています。

最後に4社目の「日本文教出版」ですけれども、巻頭で学習のサイクルを示し、見通しをもって学習が進められるようになっていきます。学び方、調べ方コーナーが充実しており、資料活用の技能を高めることが出来るよう工夫がされています。また、各単元の、ふりかえってみようのコーナーでは様々な活動の例が紹介され、自分の考えを整理して社会の一員として話し合うことが出来るようになっていきます。本文中の重要語句は、太字で表され、欄外にキーワードや難しい言葉が取り出されており、基礎的、基本的な知識の定着が図られるようになっていきます。以上が社会の4社についての報告になります。

続きまして、地図帳についてご報告をさせていただきます。地図帳については、新しい社会科地図、新しい小学生の地図帳の2社について報告をいたします。お手元の資料にしたがって報告いたします。

1社目の「新しい社会科地図」ですが、サイズがA4判といった特長を生かしまして、情報の見やすさや分かりやすさを全面に出した表現構成となっています。グラフや写真などの資料を、ゆとりをもって掲載されている他、自然の様子などを立体的なイラストで表現しています。細かな情報を記載した一般図に加え、自然や産業、歴史などに焦点を当てた取材図も多く掲載しています。

また、キャラクターによるたくさんの吹き出しにより、児童に課題意識をもたせたり、オリンピックやワールドカップの開催地の地図や資料により、関心を高めたりする工夫がなされています。地図ははっきりとした色使いで表現されており、陸の高さ、海の深さを色数を多く使って読み取りやすく表現しています。また、文字の形も工夫され見やすくなっています。

日本と世界の自然のページでは、日本の「山」、「川」、「湖」などが世界のそれらと比較しやすいようになっています。地図帳を使い始める児童の年齢には、親しみやすく抵抗無く使えると思われれます。

2社目の「楽しく学ぶ小学生の地図帳、帝国書院」ですが、教科書と同じサイズの中に適切な量の地図、グラフ、写真を掲載しているのが特長です。地名や土地の様子、地域をより理解するための拡大図、自然や産業の資料や多くの情報が、細かく丁寧に分かりやすく表現されています。主な歴史地名や事柄についても多くの情報が記載され、歴史学習での活用もしやすくなっています。また、世界に関する地図のページ数が14ページあり、先程ご紹介した東京書籍の11ページよりも多くなっています。

アメリカ合衆国の州名や都市名が、英語で表記されていて、世界の挨拶の仕方も掲載されたりするなど、外国語活動での活用についても工夫されています。地図活用の技能や能

力を段階的に付けていくことができます。地図帳の使い始めから高学年での発展的な資料にも有用であると思われます。以上、社会、地図帳についての報告を申し上げました。

<会長>

ありがとうございました。それでは、今の調査部会の報告に対しまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、ありがとうございました。

#### **「社会」調査部長退室**

<会長>

それでは、調査部長からの報告がありましたが、審議に入りたいと思います。ご意見等がございますか。調査部長の報告の中では、現在使用されている東京書籍と帝国書院の項目について報告が多い感じを受けましたが、よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。採択理由書についてご意見がありましたら、お願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、採択の理由はこれで決定したいと思います。ありがとうございました。

**調査報告書、教科用図書見本本配布  
算数調査部長入室**



<会長>

それでは、算数について調査部長より報告をお願いします。

<部長>

算数部会での調査内容につきまして、ご報告をさせていただきます。

算数部会では、6社の教科書について調査をいたしました。その結果をまとめたものが、お手元の資料となっております。その資料を基に、各教科書の大きな特長について、それぞれ簡単にご報告させていただきます。

まず、「東京書籍」の特長ですが、問題場面に写真を多用することで、児童の活動意欲を引き出したり、身の回りにある算数に気付かせたりする工夫がされていることです。ものさしやコンパス、分度器の使い方について、写真を使って丁寧に示し、これらを用いる技能を大事に扱う工夫がされています。

続きまして、「大日本図書」の特長です。体裁に関することで、全学年とも教科書を一冊にまとめてあるということです。そのために、当該学年で学習する内容を見通すことができ、既習事項の確認や学び直しが容易にできるようになり、基礎的、基本的な知識、技能を身に付けるのに有効であると考えております。

続きまして、「学校図書」の特長です。巻末の練習問題の充実ぶりが顕著であります。巻末の力をつける問題を充実させ、補充から発展へと段階的に問題を設定し、個に応じた学習を進めることができるよう工夫されています。6年生には、中学校へのかけ橋という別冊があり、中学校での学習との系統性を理解しやすく工夫しております。

続きまして、「教育出版」の特長ですが、単元末のまとめに掲載されている4コマ漫画です。他社には全くないもので、単元の学習内容を4コマ漫画にまとめ、振り返りを簡単に行うことができるよう配慮されています。振り返りの内容は、知識、理解面や考え方で以後の学習に活かしたい内容を盛り込んでいます。

続きまして、「啓林館」の特長です。1時間に何を学習するのか、どんなことが分かったかが明確に示されていることです。調べたり考え方を伝え合ったりする場面で、最初に活動の目当てが示され、最後にそのまとめが図や数式、言葉等で示されていて、一貫性のあるつくりになっております。

最後に「日本文教出版」の特長です。教科書サイズを大判にすることで、右側の余白を利用して既習事項や考える視点を示し、筋道を立て数理的に処理することができるよう工夫しています。また、大判であることを生かして、掛け算や割り算の筆算の場面では、位取りや小数点の位置に注意して計算できるよう、数を記入する枠を設ける配慮がされています。

調査部会の中で話題になった「大日本図書」についてももう少し詳しく話をさせていただきます。まず、紙面の構成としては、右側のページと次のページの2ページ分を1時間扱いにしているところが随所に見られます。右側のページで、予想を立て、調べ方を考える

ように促し、その単元の学習でポイントとなる考え方の場合には、自分の考えを書き込むスペースを広く設けている場合もあります。そして、次のページには複数の考え方を示し、その考え方を言葉で説明する活動ができるようになっております。このような紙面構成は、見通しをもって筋道を立てて考え、解決方法を表現する能力を育成するのに有効であるだけでなく、数学的活動の楽しさを味わわせることもできると考えます。学習課題に目を向けると、実際に作ったり、測ったり、また、作図したりする活動を多く取り入れ、児童が興味をもって主体的に活動に取り組めるよう十分配慮されています。この教科書では、問題を解決するための手段として、数直線を重要視しているのも大きな特長の一つです。5、6年生の教科書では、後半に数直線図のかき方のページを設け、数直線を用いると数量関係の把握がしやすいことに加え、演算決定がしやすいようになることを説明しております。その他練習問題が豊富で、基礎基本の確認から応用発展まで個々に応じて学習を進められるよう十分配慮がされています。巻末には、教科書に出てきた大切な事柄を設け、用語や決まり、計算の仕方や図のかき方が検索しやすくなっております。

先程も申し上げましたが、全学年とも一冊にまとめてあることが使いやすい特長です。そのため、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4領域をバランスよく配列し、児童の学習意欲を維持させながら学び直しが出来るよう単元が配列されていると考えています。裏表紙の前のページに、教科書に出てきた大切なことがらを設け、1年間に学んだ用語や決まり、更には計算の仕方や図のかき方まで検索することができるように工夫されていることが特長と考えております。以上で算数部会からの報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。ただいま、部長から部会の報告がありました。ご質問がございましたらお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、短期間での調査についてお世話になりました。ありがとうございました。

### **「算数」調査部長退室**

<会長>

ご意見等はございますか。調査部会の報告としては、大日本図書の調査活動結果の内容を特に多くいただきました。大日本図書の教科書を採択するという事でよろしいでしょ

うか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書の配布をお願いいたします。目を通していただきまして、質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

よろしいでしょうか。それでは、採択の理由はこちらで決定いたします。ありがとうございました。

## **調査報告書，教科用図書見本本配布**

### **生活調査部長入室**

<会長>

それでは、資料が配布されましたので、生活部会の調査報告をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

<部長>

平成31年度生活科の教科書採択のために、7つの出版会社から発行されている教科書について、比較、検討いたしました内容を、報告書を基に説明いたします。

まず、第一印象として、どの教科書も挿絵や写真をふんだんに用いていて、小学校低学年の児童の興味、関心をもたせるようという配慮がされていました。第1項目の3つの観点がありますが、どの教科書も様々な体験活動を取り入れながら自立を養うような工夫がされていました。また、自分に対する評価をしたり、振り返りをさせたりしながら、自己の成長を実感させるようになっているものがありました。

第2項目の3つの観点では、小学校の学習を始めるにあたり、スタートの単元を設けているものがあり、小1プロブレムに配慮されているものがありました。また、どの教科書にも、児童の参考となるようにワークシートの例を掲載していましたが、児童が実際に書いたようなものや、活字で大人の表現で書いてあるものなど様々なものがありました。

また、おもちゃを作るという単元は、どの教科書にもあって実際に作ってみるようにな

っていますが、扱っているおもちゃの数や種類に多い少ないなどの差がありました。

第3項目の2つの観点では、単元の配列に各出版会社の工夫が感じられました。というのは、教科書の順番に学習していくような配列になっているものと、内容が單元ごとのまとまりになっていて、学習する内容を時期に合わせて選びながら進めていくような配列になっているものがありました。実際に教科書を使う児童の立場で考えると、教科書の順番に学習する方が分かりやすいという印象をもちました。

第4項目の2つの観点では、小学校の低学年の児童に合わせて挿絵や写真、マークなどに工夫を凝らしていました。特に写真については、大きさやアングルを変えて躍動感を与えたり、児童の関心を引きつけたりというようなものが多かったです。また、吹き出しを用いて、考えるべきことや、やるべきことを分かりやすく表現している教科書がほとんどでした。

最後に、第5項目では、初めにも申し上げましたように、どの教科書も明るく様々な色を用いて、見て楽しくなるような教科書になるように配慮されていました。ただ、教科書全体の統一性という観点では、もう少し配慮が必要であると思われるものがありました。報告としては、以上となります。

<会長>

ありがとうございました。ただいま、部長から部会の報告がありました。ご質問がございましたらお願いいたします。

<委員>

調査部会の中で、気になった教科書や話題になった教科書について報告できますでしょうか。

<部長>

部員の中では、「東京書籍」と「大日本図書」の2社が話題になりました。その中でも、詳細を見ていくと東京書籍という意見になりました。

<会長>

その他はありますでしょうか。部長への質問は、特にございませんか。

<委員>

無し

<会長>

それでは、ありがとうございました。調査活動お世話になりました。

## 「生活」調査部長退室

<会長>

ただいまの調査部長からの報告を受けて、ご質問、ご意見などございますか。特によろしいでしょうか。たくさんのお社から出版がされておりますが、調査部会の報告の中でも、詳細な説明が最後にごさいました。そういったことを受けまして、ご意見等がなければ、「東京書籍」の教科書を採択するというところでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書の検討に入ります。目を通していただいて、ご意見等がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

特にご意見等がなければ、採択の理由はこれで決定といたします。ありがとうございます。

## 調査報告書、教科用図書見本本配布 理科調査部長入室

<会長>

それでは、理科について調査報告をお願いいたします。

<部長>

理科部におきましては、「東京書籍 新編新しい理科」、「大日本図書 新版たのしい理科」、「学校図書 みんなと学ぶ小学校理科」、「教育出版 未来をひらく小学理科」「啓林館 わくわく理科」の5社について調査いたしました。

まず、各教科書会社の優れた点についてポイントを説明し、次に5社の教科書の中で、

1社について、報告を付け加えさせていただきます。

1番目は、「東京書籍の新編新しい理科」ですが、小単元のまとめの段階ごとに、理科のひろばを設定し、身近な生活との関連や日常生活における有用性が実感できるよう配慮されています。また、発展的な問題解決が行えるような題材を示し、科学的な見方や考え方を深める場が設定されています。

2番目に、「大日本図書のたのしい理科」ですが、問題文が、児童に疑問をもたせる表現で記され、調べようとする意欲が持続できるよう工夫されており、児童の思考の連続性が図られる構成となっています。また、実生活との関連を資料等で紹介したり、単元末の「学んだことをいかそう」で考えさせたりすることで、その有効性が実感できるように配慮されています。

3番目に、「学校図書のみんたと学ぶ小学校理科」ですが、巻末の「考えよう調べよう」では、「みつける」、「つたえる」、「聞く」、「かんさつ」、「きろく」、「調べる」、「まとめ」、「実験器具」の使い方について方法を示し、問題解決学習の進め方が分かる構成となっています。

4番目に、「教育出版の未来をひらく小学校理科」ですが、単元導入時に身近な自然現象から児童自ら問題が見出せるよう複数の写真を掲載しております。また、吹き出しを利用して学習の方向性を図る工夫をしております。

5番目に、「啓林館のわくわく理科」ですが、ものづくりの事例を多く示し、児童の興味や関心に応じて取り組めるよう配慮されています。身近な生活に関連した話題を多く掲載し、理科を学習する意義や日常生活における有用性が実感できるよう配慮されています。

次に、5社の教科書の中で、大日本図書のたのしい理科について、先程説明したことに付け加えまして、さらに5つ申し上げます。

まず1つ目は、自然現象に対する疑問を投げかける形で構成された文章を掲載し、児童の探求意欲を喚起するよう工夫されている点。

2つ目は、各単元が、「みつけよう」、次に、「調べよう」、そして、「まとめよう」という問題解決型の道筋で構成されており、問題解決能力を高めるための工夫として、記録カードの書き方が単元の中で豊富に示されていたりする点。

3つ目は、規則性を捉えやすくするために、ものづくりを設け、総合的に自然の事物や現象を捉えやすくする配慮がされている点。

4つ目は、植物教材において、茨城県の生育状況にあった配列になっている点。

最後に、巻末には、切り取り式動物植物シート、星座シートがついており、自主的な学習に活用できる点。調査報告につきましては、以上となります。

<会長>

ありがとうございました。ただいま調査部長からの報告がございました。委員の中でご

質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、ありがとうございました。調査活動についてお世話になりました。

### **「理科」調査部長退室**

<会長>

調査部長からの報告を受けて、全体を通して委員の中でご質問等はございますか。

<委員>

無し

<会長>

よろしいでしょうか。調査部長からの報告では、「大日本図書」について詳細な報告をいただきました。採択としては、「大日本図書」の教科書を採択としてよろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書の配布をお願いします。それでは、目を通していただいて、ご意見がございましたらお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

理由書については、よろしいでしょうか。それでは、採択の理由については、これで決定いたします。ありがとうございます。

**調査報告書，教科用図書見本本配布**

## 音楽調査部長入室

<会長>

それでは、音楽部会の報告を部長からお願いいたします。

<部長>

音楽部会での調査内容についてご報告させていただきます。音楽部会では、「教育芸術社」と「教育出版社」の2社の教科書について調査をいたしました。その結果をまとめたものが、お手元の資料でございます。その資料を基に、各教科書の特長についてご報告させていただきます。

まず、「教育芸術社」の教科書について、5点、ご報告いたします。

1点目ですが、音楽を愛好する心情を育てるために、各学年で、心をつなぐ歌声として友だちをテーマとした親しみやすい楽曲を多く取り上げています。子供たちが学級や学年、もしくは、全校児童で心をつなぐ歌声や音色を合わせていく喜びが味わえるような工夫となっております。

2点目ですが、低学年では、わらべ歌や童謡、唱歌が扱われております。日本の音楽文化を大切に育てるよう工夫されております。また、高学年では我が国の伝統音楽と世界の音楽が比較鑑賞できるような取り上げ方をされております。そのため、我が国の音楽文化に誇りをもつと共に、他国の音楽文化を尊重することができるような配慮となっております。尚且つ、表現と鑑賞を関連付けた題材の工夫がみられます。

3点目ですが、6年間を通して段階的、系統的に題材が工夫され、繰り返しの学習や学びの積み重ねによって、音楽的な基礎基本の事項の定着が図れるような工夫がされております。また、題材は共通事項を核として構成されておまして、題材内のそれぞれの学習を通して、児童が気付いたり見つけたりといった流れで内容の工夫がされております。それらの活動は、児童が思いや意図をもって豊かに表現する力の育成につながり、段階的に学びが深まっていく工夫もされております。

4点目でございますが、何を目標に、どのような活動を通して、何を学び、どのようにしたいのかが、一目で分かるようなページ構成となっております。活動によるそれぞれの学習形態において、児童が主体的に音楽活動に取り込むことができるような工夫が見られます。

5点目です。ユニバーサルデザインを取り入れ、優しい色調のイラストや、全体的に白を基調としたすっきりとした見やすい紙面構成で、全ての児童にとって学びやすい配慮がされております。そして、目次とリンクした各ページの題材の示し方等、統一感があり教師、児童も学習しやすい工夫がされております。以上が、教育芸術社の特長の5点でございます。

続きまして、「教育出版」の教科書について、同様に5点申し上げます。



1点目は、全校合唱として、1年から6年まで音楽のおくりもの、さんぼの2曲がどの学年にも掲載され、学校行事及び学年行事等で楽しめるような工夫がされております。また、ポピュラーソング等の新感覚の曲が沢山盛り込まれておりまして、楽器による演奏のアレンジ例が豊富に示されております。そういったことにより、ハイレベルな音楽の力を身につけることができるということで、音楽的能力が高い児童の興味、関心に応える内容となっております。

2点目ですが、4、5年生は日本の民謡を扱っております。我が国の音楽文化を重視した内容となっております。折り込みのページには、ダイレクトに視覚に訴えてくる鮮やかで美しい写真が、資料として数多く掲載されているため、楽曲のもつ雰囲気イメージしやすい工夫がされております。

3点目ですが、音楽づくりの活動では、音のスケッチとして、教科書自体に書き込めるスペースが用意されております。思いや意図を児童自身が常に確認しながら音楽活動に取り組める工夫がされております。

4点目です。高学年の教科書の巻頭には、プロの演奏家からのメッセージが掲載されております。音楽の良さを伝えたり、音楽への興味関心を高める工夫がされております。

5点目です。カラー印刷や折り込みが多く使われており、視覚に訴える力が大きいと感じます。また、1年生から3年生までには、透明のセルシートの折り込みが使われておりまして、児童の興味関心を引きつける効果が非常に高いと考えますが、安全上の配慮は非常に必要であると感じました。以上5点でございます。

まとめますと、「教育芸術社」の教科書は、基礎、基本の定着や学習内容を丁寧に扱っております。また、全ての児童に対しての安心、安全な配慮もなされています。また、音楽を専門としない教師であっても、指導しやすい内容となっております。

「教育出版社」の教科書は、読譜など音楽的な基礎能力がしっかりと身に付いている児童や、音楽専科の教師にとっては、興味深く取り組める内容を扱っております。また、カラーページやセルシートなどの活用によって、子供たちの興味関心を引きつける高い効果を感じますが、ユニバーサルデザイン的な配慮が少し課題であると感じました。以上のことから、調査部会といたしまして、「教育芸術社」の教科書が地域の児童の実態に合ったものであると考えました。以上で、報告を終了させていただきます。

<会長>

ただいまの報告を受けて、ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、ありがとうございました。

### 「音楽」調査部長退室

<会長>

ただいまの調査報告を受けて、全体を通して委員の中でご意見等はございますか。

<委員>

異議無し

<会長>

特にございませんか。それでは、「教育芸術社」の教科書を採択いたします。ありがとうございます。採択理由書の配布をお願いします。目を通していただき、ご意見等がございましたらお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、採択の理由はこれで決定いたします。ありがとうございました。

以上で予定をしておりました、午前の部は終わりました。13時から午後の部を開始いたします。

### 調査報告書、教科用図書見本本配布

#### 図画工作調査部長入室

<会長>

それでは、午後の部を開会いたします。

図工部会の調査報告をお願いいたします。

<部長>

それでは、図工調査部会での調査内容についてご報告いたします。図工調査部会では、「開隆堂」、「日文」の2社の教科書について調査いたしました。2社とも図工教育において十分実績のある出版社ですので、調査報告書のすべての項目において、指導要領の教科の目標を達成するために必要な内容、体裁となっております。

まず、項目1では、両社とも子供たちが、しっかりと学習の見通しがもてるように工夫されています。比較いたしますと、子供たちの目線にたった配慮が「日文」の教科書に多く見られております。これからの学習への見通しばかりでなく、期待感も高めていく意図が伝わってきます。

続いて項目2です。両社とも指導要領の内容を踏まえていて適切な内容であると言えます。日文については、巻末の用具や材料、技法の資料が充実しており、専門性が不足している指導者にとっても使いやすいものとなっております。また、都市部や田園地帯など様々な学校で使用されることを考えますと、日文の方が素材や題材に地域性を考慮している点が伺えます。

続いて項目3です。2社とも「造形遊び」、「絵画」、「立体」、「工作」、「鑑賞」の各領域のバランスが大変良く編集されております。「開隆堂」は、発想力を高めるように題材が工夫されており、児童の興味関心をとりやすいものとなっております。日文では、特に「鑑賞」が充実しており、高学年で日本的なものを意識して取り上げたり、文化的活動の活性化を意図しているのか、美術館の利用も視野に入れたり、目的や方向性が明確になっている点が伺えます。

項目4では、2社とも工夫されている点が多数ありました。特に「日文」では、一題材が見開き2ページで編集されている点、学習の目当てのポイントをアンダーラインで強調し、終わりに片付けの注意点が記され、どの題材においてもページ構成に統一感があります。こういったことから、児童や教師にとって使いやすいのではないかと感じられます。

また、「日文」はページ内の文字数が少なく、すっきりとしていることから、配慮が必要とされる児童にとっても、2社を比較すれば日文の方が一目で分かりやすいというような構成となっております。

最後に項目5についてです。2社を比較すると、「開隆堂」が46から48ページに対し、日文は58ページとなっております。情報量が多いことが分かります。また、情報量だけではなく図版の取扱についても、やや大きめに取り扱って見やすいという利点もあります。

最後に、調査部会で多く話題に挙げられた日文の教科書について詳しく説明いたします。

1点目として、子供の目線に立って、見通しをもって学習に取り組めるよう配慮されていることです。教科書を手にとった瞬間から、子供の期待感を盛り上げていくような、教科との出会いを大切にしている点が評価できます。

2点目ですが、子供を活動の中にぐいぐい引っ張っていくような工夫が、指導する側の一助となることです。

3点目では、世界の中の日本というグローバルな視点に立ったとき、図工で小学生のうちから日本の美に触れていくことは、非常に重要なことです。鑑賞活動にそのような要素を取り入れていくことは、豊かな心を育むために必要不可欠であると考えます。

最後に4点目として、巻末の「用具」、「材料」、「技法」の資料が、充実していることです。教師にとって、指導の一助となるのは当然ながら、子供自身が必要に応じて振り

返るので、繰り返し確認することで確実に基本の定着が図れます。また、刃物などの利用がある図工の中で、安全な学習に繋げていけるものだと確信しております。以上で報告を終わります。審議について、よろしくお願いいたします。

<会長>

ありがとうございました。それでは、調査部長からの報告がございましたが、委員の中でご質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

よろしいでしょうか。それでは、調査報告ありがとうございました。

#### **「図工」調査部長退室**

<会長>

それでは、委員の中で全体を通してご意見等ございますか。

<委員>

無し

<会長>

よろしいでしょうか。それでは、調査部会からの報告では、「日文」の教科書について詳しく報告をしていただきました。採択については、「日文」でよろしいでしょうか。

<委員>

**異議無し**

<会長>

ありがとうございます。採択理由書の配布をお願いします。目を通していただき、ご意見等がございましたら、よろしくお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、採択理由についてこれで決定いたします。ありがとうございました。

## 調査報告書，教科用図書見本本配布 家庭科調査部長入室

<会長>

それでは、家庭科について調査部会の報告をお願いいたします。

<部長>

それでは、各教科書の特長についてご説明いたします。2社ございます。

初めに、「わたしたちの家庭科開隆堂」の主な特色について5項目においてご説明いたします。

1の項目、学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について2つの観点における特色ですが、まず、衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通して、基礎的、基本的な知識及び技能が身に付くようにするためにどのように配慮されているかにおいては、各題材ともに学習の目当てが示してあり、問題解決的な学習を通して、段階的に基礎的、基本的な知識及び技能が身に付くようになっています。

また、どの題材も見開き2ページで構成され、流れが分かりやすく、作業手順も見やすく工夫されています。

続きまして、家庭生活を大切に作る心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるために、どのように配慮されているかについてですが、わたしと家族の生活では、家族の一員として、自分でできるようになりたいことを話し合う内容となっています。

また、「やってみよう家族の仕事」では、家族の一員として自分にできる仕事を増やし、実行していく内容となっております。また、題材ごとにふり返ろう、活かそうというセルフチェックがあり、自分自身を振り返り、学習したことを生活に活かすよう工夫されております。

2の項目、内容の程度及び取り扱いについての3つの観点における特色です。

基礎、基本の定着のための工夫についてですが、調理の基礎では、ガスコンロで湯を沸かす、卵を茹でる、水から茹でる、さらに、青菜を茹でる、沸騰した湯で茹でる、茹でた野菜のサラダをつくる、切る、茹でる、調味する、そして、他の調理実習へといったように基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへと、繰り返し学習することで、基礎基本の定着を図っています。また、視覚的な資料が多いため、どの児童にも基礎的な知識や技能が身に付きやすくなっています。

続きまして、関心、意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫として、家庭科の

学習の最初に、誕生から中学生に向かうまでの自分の成長を見通せるようになっていきます。さらに、これから学ぶことが写真で明確に示してあり、興味、関心が高まります。

個に応じた指導のための工夫としては、題材ごとに児童が関心をもつような写真や図をチャレンジコーナーや発展のコーナーに設け、身に付けた知識や技能をより定着、発展させ、さらに家庭生活で実践していこうとする態度を高めるように配慮されています。

3の項目、「構成」、「配列」、「分量」についての2つの観点における特徴ですが、年間を見通した、ストーリー性のある構成と題材になっています。表紙からガイダンスが始まり、2年間で学習する題材の構成、配列が分かります。また、基礎的なものから応用的なものになるよう段階を踏んだ配列となっております。

4の項目、表記、表現についての2つの観点における特徴ですが、マークが厳選されており、分かりやすく、キャラクターの吹き出しの言葉も、興味、関心や意欲をわかせるものとなっています。また、各題材のトップの写真が内容を表すものとなっており、興味、関心を高めます。写真が児童側からの目線で示されており見やすいです。さらに、児童がつまずきやすいところは、絵や写真で拡大表示されています。

5の項目、体裁、使用上の便宜については、作業の手順の表記を全体で統一してあり、見やすく分かりやすいです。また、表紙は家庭生活をテーマにした生活を見つめるものとなっております。

続きまして、「新編 新しい家庭東京書籍」の主な特徴について5項目を報告いたします。

1の項目、学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について2つの観点における特徴を報告いたします。

各題材に活動内容を明確に位置付け、実践的、体験的に学べるようにしています。それから、「我が家にズームイン」や「めざそう 買い物名人」などでは、自分の家庭生活を振り返る場面を設け、課題意識をもって、主体的に学べるようになっていきます。また、「我が家にズームイン」では、家庭生活、家族、家庭の仕事を見つめています。さらに、「家庭生活を工夫しよう」で、実践的な態度を育てています。自由研究のコーナーでは、家庭での実践のアドバイスをしています。これだけはできるようになるというコーナーでは、実践を通して身に付けるべき力を自己評価できるように工夫されています。

2の項目、内容の程度及び取り扱いについての3つの観点における特徴ですが、基礎、基本の定着のための工夫については、いつも確かめようのコーナーで、基礎的な技能を確認できるようにしています。巻末には、拡大版が掲載され、分かりやすいです。全ての題材が3ステップで構成され、学習の目当てが示されており、問題解決的な学習が進められるようになっていきます。続いて、関心、意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫として、各題材ともに自分を見つめることからスタートし、最後は生活に活かすことを目指しているため、興味、関心が高まります。巻末のこれからの私たちを活用することで、成長を実感したり、意欲が高まったりすることが期待できます。

個に応じた指導のための工夫としては、各題材の学習の目当てが、見つめよう、計画しよう、活動しよう、生活に活かそう、新しい課題を見つけようとなっており、自分の生活を見つめることから始まり、活動し、生活に生かし、次の課題を見つける問題解決的な学習となっているため、実践に結びつきやすいです。

また、小題材ごとに、「振り返ろう」や長期の休み前に当たる題材には、自由研究があり、実際の家庭生活で実践していこうとする態度が高まるような工夫がされています。

3の項目、構成、配列、分量についての3つの観点におけるの特色ですが、前半はできることを増やしていこう、後半は、力を高め、周りも笑顔にしようというテーマで題材配列がなされています。また、中心になる内容を掲載後、参考内容を掲載しています。

4の項目、表記、表現についての2つの観点におけるの特色ですが、題材名が端的で分かりやすく内容を示しています。キャラクターが親しみやすく学習を案内しています。同年代のキャラクターやイラストがふんだんに使われていて親しみやすいです。また、教科書に書き込めるページが多いです。図表や写真が大きく分かりやすいです。児童の書いたノート、プリントを掲載し、教材を身近なものにしています。さらに、写真は実物大のものも多く、理解の助けになります。

5の項目、体裁、使用上の便宜については、大事な言葉を大きく目立つようにしてあり見やすいです。また、表紙は、家庭科の学習内容を盛り込んだ写真、イラストとなっています。以上2社の特長についてご説明いたしました。

<会長>

それでは、調査部長からの報告がございましたが、ご質問等はございますか。

<委員>

ご苦勞様です。2社の特長をご説明していただきました。どちらが児童の実態に合った教科書なのかの点について、調査部会の中で話し合われたことがありましたら、追加で説明をいただけますか。

<部長>

現行の学習指導要領の沿ったものとなると、より「開隆堂」です。現行の学習指導要領に変わる時に、うまく教科書に取り入れているところが「開隆堂」です。それぞれの良さがありますが、その点は大きかったです。

<委員>

学習指導要領にはどちらも沿っているのではないのでしょうか。

<部長>

特に家庭科では、ストーリー性のあることや、ガイダンスを大切にすることといった点が、現行の学習指導要領となっておりますが、それらを忠実に守られているのが、「開隆堂」です。

<会長>

その他ございますか。よろしいでしょうか。それでは、ありがとうございました。

#### **「家庭科」調査部長退室**

<会長>

全体を通して委員の中で質問等はございますか。

<委員>

無し

<会長>

それでは、先程の部長の報告では、開隆堂について意見がございました。「開隆堂」を採択するというところでよろしいでしょうか。

<委員>

**異議なし**

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書の配布をお願いします。目を通していただいてご意見等がございましたらお願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、採択の理由については、これで決定させていただきます。ありがとうございました。

**調査報告書，教科用図書見本本配布  
保健体育調査部長入室**



<会長>

それでは、保健体育部会の調査報告をお願いいたします。

<部長>

保健体育部会では、「東京書籍」、「大日本図書」、「文教社」、「光文書院」、「学研」の5つの教科用図書について調査いたしました。その結果をまとめたものがお手元の資料になります。その資料を基に、各教科書の特長について簡単にご報告させていただきます。

最初に「東京書籍」ですが、身近な生活上の課題解決に役立つヒントや吹き出し、多様な学習方法が提示されています。学習意欲が維持されるような工夫があり、学習が進められるようになっています。特に、「活用して深めよう」、「広げよう」では実践を促すような配慮がされています。

次に「大日本図書」ですが、比較できる図を多く取り入れているところが特長でした。学んだことを自分の生活に照らし合わせて確認をする活用コーナーが設定されています。健康や安全に留意した生活に結びつくような工夫が見られる教科書でした。

続いて、「文教社」ですが、本時のまとめ等に黄色で強調された枠があります。そこに文章が位置付けられていて、理解を促すような表現上の工夫がされています。イラストや学習のキャラクターを多用しています。呼びかけたり質問したりして主体的な学習ができるような工夫が見られます。

続いて、「光文書院」ですが、たくさんのイラストが健康を考える上でのヒントになっています。特に「見つけよう」、「あてはめよう」のコーナーを設けて、健康な生活を改善していこうという意欲を高める工夫が見られました。

最後に「学研」ですが、この教科書は重要事項を本文中に簡潔な表現で示してあります。それに関連するような図や写真により理解が深められるように配慮されています。考えてみよう、活用の項目を設け、習得した知識を繰り返し活用するような学習展開になっています。さらに、もっと知りたい・調べたいといった項目では、さらに知りたい、もっと調べたいことを紹介しています。

そして、「がかくの目」のコーナーで関連する情報を掲載するなど発展学習や個に応じた学習への配慮がされています。同年代の児童の笑顔の写真などが子供目線で作成されているので、身近で明るい雰囲気を感じています。調査部会では、学研の教科書が児童の実態に合っているのではないかといった意見になりました。以上で報告を終了いたします。

<会長>

ありがとうございました。ただいま、部長から報告がありましたが、何かご質問等ございますでしょうか。

<委員>

無し

<会長>

調査部会へのご質問はよろしいでしょうか。それでは、ありがとうございました。

### **「保健体育」調査部長退室**

<会長>

部長からの5社についてご報告をしていただきました。調査部会からの報告では、学研の教科書が児童の実態に合っているのではないかといた報告がありました。委員の中でご意見等はございますか。

<委員>

無し

<会長>

特によろしいでしょうか。保健体育については、学研の教科書を採択するということでよろしいでしょうか。

<委員>

**異議無し**

<会長>

それでは、学研の教科書を採択いたします。採択理由書の配布をお願いいたします。目を通していただきご意見等がございましたら、お願いいたします。

<委員>

無し

<会長>

それでは、採択の理由書はこれで決定いたします。ありがとうございました。

**調査報告書，教科用図書見本本配布  
特別支援教育調査部長入室**

<会長>

それでは、特別支援教育部会の調査報告をお願いいたします。

<委員>

それでは、特別支援教育部会での調査内容についてご報告させていただきます。

まず、資料についてですが、別冊3は、平成31年度使用小中学校特別支援学級知的障害者用教科用図書の採択に関する参考図書ということで、茨城県教育委員会から出されているものです。本調査はこの資料を基にして実施いたしました。調査報告書として小学校用と中学校用に分けそれぞれA3版にまとめてありますので、そちらも併せてご覧ください。それでは、具体的な説明に入らせていただきます。まず、別冊3の1ページをご覧ください。小、中学校等特別支援学級知的障害者用教科用図書の採択には、採択の原則というものがございます。初めに、採択の原則の主な内容につきまして簡単にご説明させていただきます。

1番の(2)をご覧ください。学校教育法附則第9条の規定による教科用図書と書かれておりますが、その文の5行目に毎年度異なる図書を選択することができることと明記されております。すなわち、他の教科書は4年に1回ですが、特別支援については、毎年度採択することができるということになります。そのことにより、毎年選定をし、採択していくこととなります。その点につきまして、ご確認をお願いいたします。

続きまして、(3)をご覧ください。特別支援学級において使用する教科用図書は、市町村教育委員会において、種目ごとに複数採択することができることと明記されております。種目とは、「国語」、「算数」、「理科」、「社会」といった教科を指しており、教科ごとに複数採択が出来るように選定することもご理解いただければと思います。さらに、(4)文部科学省著作教科書を採択する場合は、次の事項を基本とすることと明記されております。著作本といわれるもので、小学校では☆1つから☆3つまでが小学校で使用されます。中学校では☆が4つのものを使用します。☆本については、「国語」、「算数」、「音楽」で採択されております。

続きまして、採択上の留意事項についてご説明いたします。2ページをご覧ください。

(2)をご覧ください。特別支援学級では、A型、障害の程度が比較的軽い児童生徒を対象としたものと、それに対してB型、障害の程度が比較的重い児童生徒を基本として、教科用図書を採択するかたちとなります。

続いて、(5)をご覧ください。一般図書とありますが、今ここにあるものが一般図書といわれているものです。これらは、書店で販売されているものや、図書館や学校の図書室にもおいてある書籍です。このような本の中から教科用図書となるものを選定していく、または選定してもかまわないということになっております。先程の☆本と併せて、これらの一般図書から選定していくこととなります。ただし、この一般図書を採択する場合には、

6つの規定があります。(5)のアからオになります。アの障害の種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容であること。イの可能な限り体系的に編集されていること。ウの他教科や上学年で使用する図書との関連性。エの前年度の実績を考慮する。オの平成31年度用一般図書一覧を参考に、それ以外の図書も含めて適切な採択をすること。そして最後に、(7)平成30年度中に供給可能であるかどうかを確認していきます。今回も、残念ながら絶版になった書籍があり、新たに採択する書籍がございます。

次に4ページをご覧ください。こちらは、小、中学校等特別支援学級知的障害者用教科用図書採択に関する基本型になります。Aは、先程ご説明したA型になります。Bについては、障害が比較的重い児童生徒になります。A型は、検定と記されております。A型は、通常の採択された教科用図書を1年生から2年生については使用します。3年生になった際に、検下本といった下学年用の教科用図書を使用します。それよりも、重いB型の児童については、国語の場合は☆本を使用します。例えば、社会についてですが、B型の児童は検定本でも厳しい場合は、一般図書を使用していくということになります。小学生の児童にといた視点で選定をするのではなく、障害が重い児童でも使用できるような視点での選定を行っていきます。

中学校については、6ページをご覧ください。こちらも種目ごとにA型、B型に分かれております。

次にA3の資料をご覧ください。これは種目ごとのA型、B型において選定する際の観点や使用学年及び図書名、さらに内容に関しての調査員の意見をまとめた資料となっております。昨年度選定したものを参考に、十分に調査をして参りました。中には、在庫がなかったり、絶版になったりして来年度供給が不可能となってしまったものもあります。平成30年度に使用しております、児童生徒の教科用図書が来年度もまだ使用できるかということ、事務局によく調べていただいております。昨年度選定された一般図書が児童にとって、興味を引きやすかったり、分かりやすい内容のものであるため、一部を除いて、昨年選定した図書を引き続き選定しております。

今年度新たに選定した書籍についてご説明いたします。まず、「はじめましてにほんちず」ですが、これまで使用していた一般図書が内容的に難しいと判断し、具体的なイラストがしっかりと描かれており、イラストを見てそれぞれの地方の特長が分かるといったことで、これを選ばせていただいております。こちらについては、イラストと表記が平仮名表記であることを意識しております。

次に、「せかいのひとびと」です。小学生にとって世界といった概念は非常に難しいです。また、B型の児童にとっては、なかなか分かりにくいものですので、部会で探した結果、その国々の人々の特長や、服装、生活の様子などが、イラストにより記載されており、イメージを掴みやすいということで選定いたしました。

理科に関しましては、以前採択していた書籍がB型の児童には難しい内容のため、日常的に分かりやすい実験が多くあり、内容的にもそこまで難しくないのである書籍の「ふしぎ

をためすかがく図鑑」を選定しました。

身体に関してですが、前回選定した教科書が内容的に高度なものだったため、自分の身体がどういう風になっているのかをすぐに見られる、興味関心をもって取り組むことができるようにといった点から、この書籍を選定しました。

続いて、家庭科ですが、「マンガでわかるよのなかのルール」といった書籍を選定しました。これまで使用していた書籍も良いのですが、児童の能力や、見て分かりやすいためにこちらの書籍を選定しました。こちらについては、中学校でも選定しております。小学校の時から何度も繰り返すことが大切だと判断しました。

続きまして、中学校についてですが、これまで使用していたものが絶版となってしまいましたので、その代わりとして選びました。この本は、日本及び世界の歴史上の有名な人物についてイラストや本人の写真などを入れて分かりやすくまとめられており、歴史的事項や人物をイメージしやすく服装、関心をもって学習を進められることができると考えられます。また、生徒の発達段階においても、活用しやすいといった意見がありました。

以上のように、一般図書におきましては可能な限り、複数の教科用図書を選定したということと、在庫が無かったり、絶版になったりして来年度供給できるように出版社に問い合わせをして、供給可能である事を確認して選定をいたしました。

以上で、簡単ではありますが、特別支援調査部会の結果についての報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。ただいま、調査部長から報告をしていただきました。採択の枠組み、一般図書の絶版に対する対策、新たに選定をした一般図書についてご紹介をしていただきました。なにかご質問はございますか。

<委員>

無し

<会長>

それでは、ありがとうございました。

#### **「特別支援教育」調査部長退室**

<会長>

それでは、全体を通してご意見、ご質問はございますか。

<委員>

無し

<会長>

よろしいでしょうか。それでは、いくつかの種別の中から選択できるということと、各教育委員会ごとに種目ごとにも採択できること。また、絶版となった図書を除いて新たにいくつか新しい一般図書を選定したということで提案がありましたが、これらを採択でよろしいでしょうか。

<委員>

異議無し

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書の配布をお願いします。

調査部長の報告にもありましたが、小、中学校等特別支援学級知的障害者用図書採択に関する基本型を参考にすることや、茨城県教育委員会が出している資料集に基づいており、留意点として、採択のパターンが市町村で複数採択できるということで、それぞれの市町村の議決を頂いた中で、どのパターンにするか委ねられているということですので、それで決めていただければと思います。

それでは、採択理由書については、こちらで決定といたします。ありがとうございました。

#### **調査報告書、教科用図書見本本配布 道徳調査部長入室**

<会長>

それでは、特別の教科道徳中学校用の教科用図書について調査部会の報告をお願いします。

<部長>

特別の教科道徳が平成31年度から実施されることに伴いまして、8つの出版会社の教科書について、詳細にわたって比較、検討をいたしました。その調査内容について、調査報告書を基にご説明いたします。

まず、第1項目の1の「道徳的価値について理解するために、どのように配慮されているか」では、各出版会社とも、人間としてのよりよい生き方、自分らしい生き方、生徒の体験や経験に照らして考える教材や、命、自然、人、社会などとの繋がり、先人としての気高い生き方から自己を見つめ直す教材など多様な教材がありました。いずれにしても、

自分のこととして主体的に学習に取り組むことを通して、道徳的価値が理解できるように配慮されています。

第1項目の2ですが、「自己を見つめ、物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために、どのように配慮されているか」でございますが、自ら問題意識をもち考えていける教材、多様な視点から道徳的な価値を考えることができる教材が多く、人間としての生き方について考えを深めるような配慮がされていました。また、生徒が対話的に学習を進めていけるといった発問が用意されていたり、話し合いの進め方の手引きがあったりと、方法や手段は異なりますが、物事を多面的、多角的に考えるための工夫がなされていました。

第1項目の3ですが、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるように、どのように配慮されているか」では、各出版会社とも、自分のこととして考えたり自身の日常生活の繋がりに照らし合わせたりすることのできる、非常に今日的であり、かつ話題性のある教材を通して、道徳的実践意欲が育てられるように配慮されています。

続きまして、第2項目の1ですが、「基礎、基本の定着のための工夫」です。内容項目の4つの視点では、A自分自身に関する事、B人との関わり、C集団や社会との関わり、D生命や自然、崇高なものとの関わりを通して、道徳性を養うために、どのような工夫が見られるかでは、各出版会社とも、今日的で社会的な課題でもある、情報モラルに関する話題やいじめ問題を重点的に取り上げられていました。出版会社によってユニットとして構成がなされており、複数の時間で学習するようになっていたり、スキルとして系統的、発展的に学習できるようになっていたり、教材の取り扱い方によって道徳性を養っていくための工夫が見られました。

第2項目の2でございます。「関心意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫」ですが、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等、多様な指導を進めるために、どのような工夫が見られるかでは、道徳的に関する問題から、問題解決的に考え深めていくための手引きや道筋が示されていたり、人間関係づくりが中心となるソーシャルスキルトレーニングなどの体験的な学習ができる教材や葛藤する場面のある教材などが取り扱われていたりするなど、各出版会社とも多様な指導を進めていくための工夫が見られました。

第2項目の3でございます。「個に応じた指導の工夫」ですが、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるようにするために、どのような工夫が見られるかでは、出版会社ごとに、言語活動や体験的な活動に繋がる手引きが配置されていたり、また、自分の考えや学習の振り返りを書けるような記入欄や道徳ノートが別冊で用意されていたりするなどの工夫が見られます。

第3項目の1ですが、「内容項目や発達の段階からみて、教材の構成、配列や内容の系統性」については、どのような特色があるかでは、出版会社ごとに、目次で学習内容や内容項目の4つの視点分かるように、色やマークで分類したり系統性が分かるページが用

意されていました。また、4つの視点以外にも、問題や課題に即したテーマごとに配列したり学校の教育活動と関連付けて配列したりするなど、配列は出版会社ごとにそれぞれ特色がありました。

続いて、第3項目の2ですが、「内容の配列、分量には、どのような特色があるか」では、各出版社とも、生命の尊さやいじめ問題といった、各学年で重点化してある内容項目については、複数の教材が用意されていました。また、その複数の教材の配列は、集中するか分散するかで出版社ごとに特色が見られます。

第4項目でございます。「学年の発達の段階に則した文や文章の長さ、段落、文体、挿絵、写真、さらに図、表等の表記、表現について、どのような工夫が見られるか」では、各出版社ごとに、読みやすい書体を使用したり改行する場所の工夫などが見られました。また、挿絵や写真、図表は大きさと配置、配色がいずれも考慮され視覚的に捉えやすくするための工夫が見られました。

第5項目です。「印刷、製本、紙質、文字の大きさ、使用上の便宜上等について、どのように配慮されているか」では、教科書の大きさにおいて、B5版、A4版、A3版と違いがありました。出版会社ごとに、大きさの特長を活かすように、大きい文字や太めの文字にしたり、配置を工夫したりするなど様々な工夫が見られました。各出版社とも、再生紙などの環境に配慮した紙や植物油インキを使用するなど、環境面や健康面への配慮がされています。

各出版会社とも、採択が初めての教科であるため、それぞれに工夫がありますが、学習指導要領の教科の目標を達成するために、取り扱う内容の選択等については、大きな違いはないと感じました。

また、表記や使用上の便宜等においては、出版会社ごとの特色が出ている項目もありましたが、総じて各出版会社ともそれぞれ教科書として確実に作成されていて、10の調査項目を包括してみると、なかなか優劣をつけがたいと、調査を通して感じました。

#### <会長>

それでは、調査部長からの報告がございましたが、ご質問等がございましたらお願いいたします。全体的には、優劣つけがたいとのことですが、調査委員の中で話題になったものがあればお願いいたします。

#### <部長>

調査委員から出た意見ですが、学習者である生徒の立場から考えると、見やすい、読みやすい、目当てをもちやすい、理解しやすいなどがポイントになっています。指導者である教員の立場から考えると、指導内容が分かりやすい、道德の1時間の授業の流れを見通せて指導しやすい、考え議論するなど深まりのある授業が展開しやすい、振り返りや生徒の見取りがしやすいことなどがあります。生徒と教員の両面の立場という、より総合的な



視点からすると若干の違いがあります。

まず、道徳ノートの有無です。さらに、授業者が授業を構想する上で幅がもてるか、あるいは、方向性がはっきりとして、1時間で確実にどのような理論をもっているか、同様な授業が展開できるのか。部会内で、そういった点を踏まえて選定を行いました。

1点目の道徳ノートは2社ございます。その内の1社の「日本文教出版」です。道徳ノートで学習の積み上げが見え、小学校との学習の接続が図りやすい点です。

学習の進め方についてオリエンテーションで分かりやすく説明され、授業が展開しやすい「東京書籍」です。

落ち着いた配色で学習の方向性が掴みやすい、「光村図書」となります。調査部会内では、これら3社について意見がありました。

<会長>

調査部長からの報告がありました。なにかご質問等はございますか。

<委員>

3社について、再度説明をお願いします。

<部長>

1社目が、道徳ノートが有り小学校との接続が図りやすい「日本文教出版」です。2社目が、オリエンテーションで学習の進め方が分かりやすく説明され、授業が展開しやすい「東京書籍」。3社目が、落ち着いた配色で学習の方向性が掴みやすい「光村図書」になります。

<委員>

配色が印象的だったのですか。

<部長>

配色に特長がありまして、落ち着いた配色です。考え理論する道徳にふさわしい配色であるといった意見がある一方、多少地味で見やすさに欠けるのではないかといった意見もありました。

<会長>

その他にありますか。部長への質問はよろしいですか。

<委員>

3社の中で、教師側からみるとどの教科書がいいのか。

<部長>

調査部会の意見は集中しません。ただし、指導者側からすると、「東京書籍」です。東京書籍の教科書の最後に、考えてみようの2問の例が載っていますが、生徒の実態や、教科書に表記されていない発問を考えて出せることもあり、授業が展開しやすいことです。

「光村図書」ですが、教材の最後に学びのテーマがあり毎時間協議することができます。これにより学びの方向性が、考える視点や、見方を変えて、つなげようなど、発展的に考えるなどはっきり学習の方向性が示されています。その一方、教師側からすると、学習の方向性がはっきり決まってくるので、ゆとりをもった授業展開がしづらいついた意見が僅かながらありました。以上の点から、教師側から考えると「東京書籍」となりました。

また、生徒側から考えると、「日本文教出版」となります。2年間の使用と考えると、現在小学校の5年生6年生が手にすることになりますが、発問、学習の進め方等が小学校の教科書と類似しておりますので、学習の進め方やノートに直接書くことができ、使いやすいこともあり、「日本文教出版」となります。

<会長>

教師側と生徒側の立場で、分析をしていただき報告していただきました。その他にございますか。

例えば、これらが3社の用紙、写真、挿絵の鮮明度です。「光村図書」の用紙がクリーム色に近い色で、他の2社は白色となっております。紙質や用紙の色について調査部会の中で意見はありましたか。

<部長>

紙質等については、「光村図書」が白色ではなく、クリーム色に近い色で見づらいといった意見がありました。内容については、学びのテーマもあり確実に示されており、学習の方向性が掴みやすくなっています。「東京書籍」と、「日本文教出版」の紙質についてですが、若干ではありますが、「東京書籍」の方が白色ではないかとの意見がありました。が、確実にどれだけ白さがあるということは難しいところではあります。

<委員>

「日文の道徳ノート」は、小学校でも使っていますがその反応はどうですか。

<部長>

教師側の見方では、「道徳ノート」があると書く内容が制限されます。中学生の発達段階を考えると、自分の罫線が入ったノートやマス目が入ったノート、あるいは白紙のノートで自由に作るのも、十分な利点にもなると言えます。しかし、一部の意見として話し合

いのメモや、中学校の道徳を進めていくことが、時間的に厳しいとするとポイントがあるノートがあるほうが、反対にいいのではないかといった意見もありました。

<部長>

その他はございますか。

<委員>

無し

<部長>

それでは、調査報告ありがとうございました。新たな採択になりますので、協議をさせていただきます。部長には一度退席していただきたいと思えます。

#### **「道徳」調査部長退室**

<会長>

先程の報告では、方向性として「日本文教出版」，「東京書籍」，「光村図書」の3社を挙げていただきました。この後の協議では、この3社を対象にして、委員の中でご協議をしていただいで、進めるといったことよろしいでしょうか。

<委員>

意義無し

<会長>

それでは、今申し上げた3社の教科書を再度ご覧になっていただき、ご意見等をお願いいたします。

<委員>

調査部長の報告の通り、どの教科書も良いと思えます。私の意見ですが、副題として良いと思ったのは、「日本文教出版のあすを生きる」という点です。内容については、難しいと思いましたが、命について多く扱っているのが、「日本文教出版」，「東京書籍」，「光村図書」の順だと感じました。紙質等については、「光村図書」は少し落ちるのではと感じました。若い生徒に紙質はあまり関係無いという部分は分かるのですが、やはり気持ちの展開として他の2社の方がよろしいのではないかと思います。私の意見とすれば、「日本文教出版」，「東京書籍」，「光村図書」の順となります。

<会長>

ありがとうございます。

<会長>

「道徳ノート」については、小学校の教科書を採択するときにもある程度目安であった方がよいのではないかといった意見と、枠にはまるのがどうなのかといった意見が両方ありました。小学生については、発達段階も考慮し、色々な先生が指導するという一方で、目安として取り入れてはといった意見がありました。

<委員>

中学生になると多種多様な考え方があり、自由に書いてくれます。そういった点がなくなってしまうのではないかとといった危惧が1つ。「日本文教出版」か「東京書籍」で迷っているところではありますが、それぞれの価値や、現在小学校で使用している日文を使用するのか、中学校から違う教科書を使うことも良いことかとは思いますが。

<会長>

小学校の時に、ノートについてのご意見が出た中では、構成としては小学校のノートと同じような形で、「東京書籍の考えてみよう」のところで、道徳の授業における主発問については、巻末に挙げております。日本文教出版のノートは、投げかけているのは主題に沿って主発問に繋がるような発問が1つ掲載されています。あとは、発展的に本人それぞれの思いが書けるような形の構成になっております。ノートの中身的には、それほど個人の考えを縛るような構成にはなっていないと感じます。

<委員>

小学校の時に、ノートを使う、使わないといった意見がありました。ノートが付いているから必ず使うということではなく、慣れていない先生は使ったり、慣れている先生は使用しなかったりという議論がありました。

<会長>

それぞれの学校の先生方は、ノートの有無にかかわらず様々な心情表現等でプリントを用意したり、手作りの資料を用意するなどして授業を進めているのが一般的です。

<委員>

昨年も、小学校の道徳を決める際に、道徳のノートの有無について意見がありました。スタートだからそういった道筋があった方がよいだろうといった意見もありました。まず、教科書の目次を見てみましたが、どういったことをやっていくのかが分かりやすいのが、

「東京書籍」と「日本文教出版」でした。最初に子供たちが目にしたときに、道徳の授業はどういったことをやっていくのかなといった時に、非常に見やすいのが、この2社でした。様々な意見を出し合っていくということであれば、テーマがあったほうが先生方もやりやすいのではと思います。そういった点で、「日本文教出版」と、「東京書籍」がうまくできていると感じました。

<会長>

その他にございますか。

<委員>

一番気に入った教科書は、「光村図書」になります。「光村図書」は、テーマがあります。テーマはすごく大事だなと思っており、この授業の中でいったい何をみんなで考えていくのかという点が明記されている。それで、方向性が定まるのではないか。道徳の授業でも、なにがテーマで子供たちに話し合わせるか、先生は何を狙っているのかがはっきりしない授業がある。そういった意味では、きちんと打ち出されているほうがよいのではないか。

紙質についてですが、この紙質は書き込みにいい紙質だと思います。「光村図書」の2年生用の教科書に「泣いた赤おに」がでてきます。その最初に、小学校の道徳の時間に学んだことがあるかもしれませんと書かれています。小学校で学んでいるであろう教材をもう一度掲載されており、小学校の時に考えたことと、中学校になって考えたことの比較ができるのかなと思います。しかし、全体的な使いやすさで考えますと、「日本文教出版」が良いと感じました。道徳ノートの有無ではなく、内容や見やすさなど様々な事を踏まえて一般的ではないかと感じております。小学校の道徳ノートについては、現在使っていない学校もあります。

<会長>

その他はございますか。

<委員>

目の前にいる子供たち一人一人の価値観というのは様々なので、それをどういう方法で一つのテーマでまとめていくか、価値を広げていくかが道徳の授業になるのではと思います。資料を基にして、授業をされる先生がどのようにその価値を捕らえて、どう議論していくかを考えていくと、主発問をあまりたくさんしないで、その柱がどれだけ資料の中で生きていくのかなと感じました。授業者の道徳に対する慣れや熟度によって、どこをポイントに置いて選んでいくのかになってしまう。道徳の授業が難しくてやり辛いといった先生にも、使いやすい教科書を選ぶか、本来の道徳の授業ができるような教科書を選ぶか、

人間らしい道徳的な価値を深く広くもつことが出来る授業のきっかけとなる教科書を選べれば良いです。

<会長>

その他ございますか。

<委員>

35の話が載っておりますが、一学年で全てを学習するのですか。また、一回にどの程度の時間を費やすのでしょうか。

<委員>

50分授業です。

<委員>

50分の間に一つの話を終えるということになるのですね。

<委員>

資料を読んだだけで、説明がいない資料などもあります。いじめはいけないこと、困っている人に手を差し伸べることなどありますが、なかなか踏み出せないことなど本音が出せることもある。結論が出ないこともすばらしいことだと思います。それによって他人の意見で左右されたりする50分でも達成だと思います。現実として、道徳の授業を一生懸命やる先生と、あまりそうでない先生がいる中で、ある意味では「道徳ノート」があった方がいい場合もあるでしょうし、資料とは命なので、そういった考え方もあるのかといったことを引き出すと同時に、分かりやすいといった部分も命だという気がします。

<会長>

その教科書も、目次で「日本文教出版」でも35項目、「東京書籍」が30項目、「光村図書」が34項目あり、基本的には、50分で一教材となっております。道徳の授業で、ここで扱っている項目全部を同じ時間配当で、やっていくといった方法もありますが、現実的には、この中でそれぞれの目次の下にあるジャンルの中で、社会とのかかわりを考えるとといった項目の中で5つ題材が出ているとしたら、1つか2つは読み物教材的に読んで終わらせて、指導者が重点的に深くやりたいとなれば、その教材に時間をかけて指導するなど対応の仕方は許容されている部分ではあります。いくつかご意見をいただきましたが、決定的なところまでは進んでいませんが、その他はいかがでしょうか。

<委員>

初めての教科ですので、ノートについてはメリット、デメリットがあると思いますが、必要でない先生は自分で工夫して使用し、スムーズに移行することを考えれば、小学校でも使用している日文が自然だと思います。

<会長>

ありがとうございました。その他にありますでしょうか。

<委員>

小中の道徳の資料を見ましたが、理想的道徳は将来一番良いだろうというのは良く分かるのですが、現実を見ると一つのテーマを50分で行う中で、本当にいろんな意見はでます。しかし、結局意見が出たところで終わっていることから、もう少しあるだろうと思ったりもします。子供たちもいろんな考えがあることは認識するとは思いますが、その先が50分の中では難しいのかもしれませんが、現実にも子供たちも多様性を受け入れている部分も感じました。将来的には、試行錯誤で行っていくのですが、現状は、まだ慣れていない先生がいるために、その点も踏まえた教科書が良いのではないのでしょうか。そこから膨らますのは、各先生の裁量で良いとは思いますが、まずはある程度決められるものがないと難しいかなと思います。

<会長>

ありがとうございました。調査部長の報告でも甲乙つけがたいといった報告がありました。委員からも様々なご意見をいただきました。特にここがすばらしいといったものはなかったのですが、総合的にみて「日本文教出版」の意見が少し多かった気がします。いかがでしょうか。「日本文教出版」の教科書を採択するというところでどうでしょうか。

<委員>

**異議無し**

<会長>

ありがとうございます。それでは、「日本文教出版」の教科書を採択するというところで決定させていただきます。採択理由書の配布をお願いいたします。目を通していただいてご意見等をお願いいたします。以上の理由でよろしいでしょうか。

<委員>

**異議無し**

<会長>

ありがとうございました。採択の理由については、これで決定といたします。

ただいまご審議していただきまして、小学校用の教科用図書の選定、特別支援教育の選定、中学校用の道徳の選定が終了いたしました。ありがとうございました。

続きまして、中学校用の教科用図書について確認をさせていただきます。中学校用の教科用図書については、採択したものを原則4年間使用するというので、来年在4年目になります。その次の採択までは、前年と同じものを使うということになっておりますので、選定の確認をお願いいたします。

### 中学校用教科用図書一覧配布

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同施行令により、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、特に事情がない限り4年となっております。中学校用教科用図書は、平成28年度から採択されておりますので、現時点では特段の事情がないと思われまので、平成31年度は今年度と同じものを採択することとなります。そういった事情で、特に意義はございませんか。

<委員>

異議無し

<会長>

それでは、一覧に記載されている教科書をそのまま継続で使用することといたします。続きまして、採択結果及び理由等の公表について審議いたします。事務局から説明をお願いいたします。

<事務局>

公表については、平成27年度に規約が改正されましたので、改めてそのことについて確認いたします。資料の4ページ、5ページの規約の第5章をご覧ください。情報開示については、14条の通りでございます。公表に関しては、15条に述べられているように、当該教科用図書の種類、当該教科用図書を採択した理由、第12条の第2項の資料、協議会の会議の議事録こちらが公表となります。

この公表については、当該教科用図書の種類、当該教科用図書を採択した理由、こちらは各教育委員会に送付してWEB上にアップ、報告書及び議事録については、事務局である大洗町教育委員会でアップするというを行います。そのようなことで、よろしいかどうかご審議いただきたいと思っております。



また、議事録に関しましては、大洗町で取りまとめた後、各教育委員会に確認をしていただき公開したいと考えております。規約のほうには、遅滞なく公表とありますが、当該教科用図書の種類のアップよりは遅くなることと思います。以上です。ご審議の程よろしくお願いいたします。

<会長>

事務局より、公開についてのご説明をさせていただきました。教科用図書の種類については各教育委員会でアップするということをお願いいたします。そして、資料、協議会の議事録については、第4採択地区の事務局である大洗町がアップするということになります。そういったことでよろしいでしょうか。

<委員>

異議無し

<会長>

ありがとうございます。それでは、第4採択地区の公表は以上の手続きで行います。

なお、今後情報開示などがあるかと思いますが、その際は、協議会で決定したことなどについて事務局である大洗町教育委員会で対応したいと思います。前の事務局の茨城町についても同様に対応しておりますので、ご了承いただければと思います。

それでは、以上で全ての審議が終了いたしました。その他何かご質問等はございますか。特にございませんか。

本日、審議していただき決定した事項を、事務局から各教育委員会へ送付いたします。また、不明な点等がございましたら、事務局まで問い合わせをお願いいたします。

それでは、以上で議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

<事務局>

飯島会長ありがとうございます。

それでは、事務局より要項にございます今後の予定についてご説明いたします。

<事務局>

今後の予定についてご説明いたします。

議決事項の報告についてですが、各市町の教育長様には、本日の結果を各市町教育委員会へご報告をお願いいたします。

今回採択されました教科用図書一覧表等の電子データを、7月6日月曜日までに各市町の事務局までに電子メールで送らせていただきます。そちらを基に、7月27日金曜日までに各市町教育委員会までに議決をお願いいたします。なお、議決が済みましたら、採択

教科用図書一覧表を事務担当者にお渡しいただければと思います。

各市町の議決の報告の期限についてですが、同じく27日金曜日までに文書で報告願います。なお、文書による報告が遅れる場合には、大洗町教育委員会学校教育課宛に、議決した旨、FAXにてご連絡をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後に本日の資料についてですが、教育長様がお持ちの資料は、各市町教育委員会保管用としてお持ち帰りいただければと思います。それ以外の資料につきましては、事務局で回収いたしますので、よろしくお願いいたします。事務連絡は以上となります。

<事務局>

それでは、閉会のことばを本選定協議会の副会長 笠間市教育委員会教育長 今泉寛様  
お願いいたします。

閉会のことば 副会長 笠間市教育委員会 教育長 今泉 寛 様  
閉会時間 午後3時10分